

奈良文化財研究所が提供している データベース

はじめに

奈良文化財研究所は、調査・研究の成果を社会に還元する一環として、各種データベースの公開を長年に渡って行っている。今回、それぞれのデータベースの特徴を詳しく知っていただき、研究者の方々の調査・研究のみならず、文化財に関する調べもの一般にも広く活用していただけるよう、案内の書としてこの埋蔵文化財ニュースを作成した。本稿の文責は、企画調整部文化財情報研究室にある。

データベース一覧

奈良文化財研究所のデータベースへのアクセスは、研究所のホームページ (<http://www.nabunken.go.jp>) から、画面右側にあるデータベースのボタンをクリックし、それぞれのリンクを辿ってほしい。

2014年3月現在、奈良文化財研究所のデータベースとして掲載されているものは、以下の通りである。

- ・木簡データベース
- ・木簡画像データベース〔木簡字典〕（日・韓・中・英）
- ・木簡画像データベース・木簡字典／電子くずし字字典データベース連携検索
- ・木簡人名データベース
- ・全国木簡出土遺跡・報告書データベース
- ・墨書土器画像データベース〔墨書土器字典〕
- ・遺跡データベース
- ・地方官衙関係遺跡データベース
- ・古代寺院遺跡データベース
- ・官衙関係遺跡整備データベース
- ・遺跡の斜面保護データベース
- ・発掘庭園データベース
- ・Archaeologically Excavated Japanese Gardens
- ・Japanese Garden Dictionary
- ・所蔵図書データベース
- ・報告書抄録データベース
- ・薬師寺典籍文書データベース
- ・大宮家文書データベース
- ・平城京出土陶硯データベース
- ・学術情報リポジトリ
- ・木簡ひろば

これらのデータベースは、いくつかのグループに分けて考えることができる。

出土文字資料関連のデータベース

出土文字資料に関するデータベースには、木簡データベース関係の複数のデータベースと、墨書土器画像データベースがある。

木簡データベースファミリーとも言うべき一群は、

- ・木簡データベース
- ・木簡画像データベース〔木簡字典〕
- ・木簡画像データベース・木簡字典／電子くずし字字典データベース連携検索
- ・木簡人名データベース
- ・全国木簡出土遺跡・報告書データベース
- ・木簡ひろば

からなる。

木簡データベースは、1点の木簡を1レコードとするデータベースで、木簡が木製の遺物であるところに着目していると言うこともできる。これに対し、木簡字典は、ひとつひとつの文字を対象としたデータベースである。文字を対象とすることで、同じように文字ひとつひとつを対象としている東京大学史料編纂所の電子くずし字字典データベースと連携検索を実現している。

木簡に現れる人名に注目したのが、木簡人名データベースで、木簡が出土した遺跡や、木簡に関する記述がある発掘調査報告書を集成了したものが全国木簡出土遺跡・報告書データベースとなる。

また、これらを統合し、関連情報と合わせて提供するポータルサイトとして、木簡ひろばがある。専門家でない人でも、順を追って学習できるように工夫されている。

このように木簡に関するデータベースは互いに関連したひとつの群を成しており、それぞれをつなげて有効活用していただくことにより、より深くまた広く調査・研究に資するものとなっている。

墨書土器画像データベースは、墨書土器字典という別称が示すように木簡字典の考え方を、文字が記された土器に関するデータベースに応用したものである。日本の環境では、漆紙文書のような例外はあるものの、通常、遺跡から文字を記した紙製遺物が出土すること少ないので、木簡関係と墨書土器関係で出土文字資料の大半を網羅している。

遺跡に関するデータベース

遺跡に関するデータベースとして、遺跡データベース、地方官衙関係遺跡データベース、古代寺院遺跡データベースの3つがあ

る。後述する官衙関係遺跡整備データベースも官衙に関するデータベースだが、遺跡整備に重点をおいたデータベースなので、遺跡関係のデータベースとは分けて考える。

遺跡データベースは、全国を対象に、遺跡として報告されたすべてを対象として、いわば遺跡情報の百貨店を目指して整備しているものである。

地方官衙関係遺跡データベースは、遺跡の中で地方官衙に比定されたり、その可能性があると報告されている遺跡について、特に遺物遺構の詳しい情報を提供する。

古代寺院遺跡データベースは、遺跡の中で古代の寺院に比定されたり、その可能性があると報告されている遺跡について、特に建物遺構の詳細情報を示す。

遺跡整備に関するデータベース

遺跡整備に関するデータベースには、官衙関係遺跡整備データベースと遺跡の斜面保護データベースがある。

官衙関係の遺跡についてその整備手法などを詳細に述べるものが官衙関係遺跡整備データベースで、傾斜地にある遺跡の斜面に対しどのような整備手法を用いているかをデータベース化したもののが、遺跡の斜面保護データベースとなる。

庭園に関するデータベース

庭園も建物と同様に、古い時代のものは現在まで庭園としての機能を保ったままで遺存しているよりも、埋没していて発掘調査によって発見される例が多い。発掘調査された庭園に関するデータベースが、発掘庭園データベースであり、その内容を英語化したものが、**Archaeologically Excavated Japanese Gardens** である。この英語版データベースの理解を深めるために関連用語を解説したのが、**Japanese Garden Dictionary** となる。

文献や史料のデータベース

奈良文化財研究所は、調査・研究業務に関連する図書を所蔵し、広く一般の方々の閲覧にも供している。その助けとするために、研究所に来られなくてもインターネットを通じて蔵書検索が可能となるように提供しているのが、所蔵図書データベースである。

遺跡の発掘調査報告書は冊数も多く、また部厚いものが多いために、その内容を簡便に知る方法が求められていた。こういった需要に答える形で整備されてきているのが、発掘調査報告書抄録である。奈良文化財研究所では、諸機関の協力を得て発掘調査報告書抄録をデータベース化して提供している。

奈良文化財研究所はその設立当初より、古代社寺の研究を行い、

その中で多数の文書調査を行ってきている。それらの成果の一部をデータベース化したものが、薬師寺典籍文書データベースと大宮家文書データベースである。

遺物のデータベース

遺物のデータベースは木簡を除けば、公開できる段階に達しているものは多くはない。これは、出土遺物に関してはまず整理作業の管理にかかるデータベースが作られるために、当事者以外には必要のない情報が多いためである。遺物の種類ごとに、まとまった情報が整備されたものから、報告書を作成したりデータベースの再構築を行っている。平城京出土陶硯データベースは、遺物データベースの公開に先鞭をつけるものと言えるだろう。

奈良文化財研究所公開データベースの今後

公開データベースの整備は、研究成果公開の有効手段として、今後とも継続するとともに、研究支援を目的として新たにデータベース作成も企画中である。

現在、公開に向けて準備を進めているデータベースのひとつとして、考古関連雑誌論文情報補完データベースがある。考古学関係の雑誌について、著名な物は、国立情報学研究所の学術論文に関するデータベースである **CNii** で検索することが可能である。しかし、地方の雑誌や同人誌に近いもの等、現存するインターネットのデータベースで検索できない雑誌も多く存在している。そこで、考古関連雑誌と判断した雑誌で、奈良文化財研究所が所蔵している雑誌について、記載されている論文に関するデータベースを作成し、既存の論文データベースを補完する情報を提供しようというものが、考古関連雑誌論文情報補完データベースである。

公開データベースの数が増えるにしたがって、調べものをするときにどのデータベースで検索すればよいかわからない場合が増えてくると予想される。共通検索の手法が有益と考える。

注

次ページ以下で個々のデータベースについて説明する際に、データベースフィールド名は【 】に入れて示した。

木簡データベース

はじめに

木簡データベースの開発は古く、サーバーとして国立民族学博物館の汎用機を利用して1980年代に始まっている。現在は、プラウザから利用可能な形で、奈良文化財研究所に設置しているサーバーから情報発信している。

木簡データベースにアクセスすると説明のページが表示される。このページで述べている通り、木簡データベースは全国で出土した木簡の中で、釈文の内容が確定して報告書が刊行されたり、木簡学会編の『木簡研究』の場で報告された木簡を公開対象としている。

遺跡の発掘調査で出土した木簡は、たいへん脆弱な遺物なので、その水洗いにも気を使う。木簡を再利用するために削った屑に墨の痕跡がある場合、それらを探し出し拾い上げる作業には時間がかかる。その後の記録や調査・研究にも時間要するので、公開データベースにまだ載せられていない木簡も多数存在している。

2014年3月の時点で、内部で業務用に用いている木簡データベースに登録している木簡は、155,031点あり、公開している49,389点は、その32%にあたる。未公開の資料には、小さな削り屑で文字を判読できない資料が多数含まれている。

ページとフィールドの構成

木簡データベースでは、最初の説明ページから分岐して、次のページにアクセスできる。

- ・検索
- ・利用方法
- ・凡例
- ・更新履歴

まず、利用方法のページを読み、使い方を理解することが肝要である。凡例のページでは、木簡データベースの個々のフィールドについて解説している。フィールドの特性を理解して正しく利用していただく上で重要な情報を掲載している。

データベースフィールドは、

- 【遺跡名】
- 【発掘次数】
- 【所在地】
- 【調査主体】
- 【地区名】
- 【遺構番号】

【本文】

【寸法】

【型式番号】

【形状】

【樹種】

【木取り】

【内容分類】

【出典】

【木簡番号】

【和暦】

【西暦】

【国郡郷里】

【人名】

から成る。

検索上の特徴

検索はそれぞれのフィールドについて「包含」「先頭一致」「完全一致」の各条件を指定できる。

データ文字列の中に検索文字列が含まれている場合=包含

データの文字列が検索文字列で始まる場合=先頭一致

データの文字列と検索文字列が完全に等しい場合=完全一致となる。

ただ、検索には文字コードが異なる文字であっても同一視する場合や、特定の文字を検索対象から除外するといった機能が付加されている場合があるので注意が必要である。

表紙ページの【お知らせ】2001.5.31に記載しているように、木簡データベースでは、読み切っていない文字(□〔カ〕として表示)も前後の文字と通して検索できるようになっている。

例えば「式部省」で検索すると、「式部省」という本文の他、「□〔式カ〕部省」や「式□□〔部省カ〕」なども検索可能である。但し、検索結果の一括表示の画面では、それらも全て「式部省」と表示される。また、例えば「式□□□□□□部省」というような木簡があった場合にも、「式部省」で検索されることになるので、注意が必要である。本文を個々の木簡の詳細データで確認し、さらに出典にあたっていただきたい。

このように、出土文字資料である木簡の特性に配慮し、実際の検索時に必要となる機能を特に盛り込んでいるところに、このデータベースの特色のひとつがある。

実際の検索例で説明する。検索画面で、「吉備」と入力すると、検索対象の全フィールドに対する包含検索が行われ、結果が 20

点ずつの一覧表示される(図1)。表示されるフィールドは、【連番】【本文】【KWIC】【型式番号】【出典】【遺跡名】である。

図1 木簡データベースでの検索結果一覧表示

一覧表示では、本文は KWIC 表示される。KWIC とは、Key

Word In Context の略で、検索語を文脈の中でとらえて比較しやすいように配置して表示するものである。文脈の中でとらえることにより、検索語の意味を的確に把握することが可能である。「吉備」の例では、人名として使われている場合、地名として使われている場合があることがよくわかる。

また、この例では、本文に「吉備」の語句がない木簡も表示されている。これは、検索対象の全フィールドに対する検索を実行しているので、本文以外のフィールドに「吉備」の語が入力されているためにヒットしているものである。

・内親王御許米半升受宮入女○◇・九月十六日豊國○◇
の木簡では、【人名】のフィールドに「内親王」が吉備内親王であることが示されている。

詳細な情報を見たい木簡に対しては、【連番】の部分をクリックすることで、詳細画面が表示される。先ほどの木簡についてその詳細情報を表示すると図2のようになる。

一覧表示では示されていなかったフィールドも全部、その内容を見ることができる。さらに、すべての木簡についてではないものの、写真も添付されている。文字情報と共に表示されているのは、索引としての画像であり、そこをクリックすることで、より詳細な画像を表示可能である。

木簡に記されている文字は、一部が欠損していたり、木の表面状態が良くないなどの理由で、読みが困難なことがしばしばある。本文データとして挙げられている文字の読みと写真とを比較検討することが可能となっている。

図2 木簡データベース詳細画面

フィールドの中で、文字資料の内容理解を助けるため注目すべきフィールドは次の4つのフィールドである。

【和暦】

【西暦】

【国郡郷里】

【人名】

これらは、先ほど「吉備」で検索した結果の説明の中で触れたように、木簡の本文に記載されている文字列そのものだけではなくて、その表現の意味するところを解釈した成果を盛り込んでいるところに特徴がある。

【国郡郷里】のフィールドを活用して、木簡の本文に「参河国芳岡郡」とある木簡について、国郡名を「参河国幡豆郡」として検索できるようにしている。標準的な表記での検索を可能することで、表記の揺れによって検索でヒットしなくなることを防いでいる。

【和暦】のフィールドでは、想定される年号を記載している。例えば、本文に「・廿九日壬申○□→」というデータがある木簡では、この日付と干支の組み合わせで、可能性のある年号の候補を記載して、

〈特統10年1月29日・大宝1年2月29日・大宝1年4月29日・慶雲3年3月29日〉

と記して検索に供している。

ある情報を、知識ベースに照らして調整し、その成果を再び検索の場に持ち込むことで利用者が利用しやすくなっている。

木簡画像データベース [木簡字典]

はじめに

木簡字典は木簡の文字ひとつひとつを対象としたデータベースであり、「木簡字典とは」のところで詳しく述べてあるように、複数の科学研究費補助金による研究の成果を含んでいる。

2014年3月現在で、文字画像数は66,000点を越えている。これらは飛鳥・奈良時代を中心とする時代に書かれた文字に関する情報として、文字の変遷などを探る基礎となるものである。

検索上の特徴

このデータベースにおける検索上の特徴は、対象文字をいろいろな画像で示していることである。

最大の場合、カラー画像、モノクロ画像、赤外画像、記帳ノートという4種類の画像が、同じ文字もしくは文字列に対して示される。さらに、カラー画像ならカラー画像が、複数種類提示されることもある。

例として、ある木簡の本文の内、「〇三家人口麻呂調／〇塩参考斗//」で示される部分を掲げる。ここでは、実際の検索結果表示の画面を整形して示している。



図3 木簡字典での各種画像表示

左端はカラー写真。左から2番目がモノクロ写真の画像、3番目が赤外撮影の画像である。赤外画像で見ると、墨の黒が強調されるとともに、木目の違いがモノクロ画像よりも抑えられていることがわかる。このように、カラー・モノクロ・赤外という特性を考慮して比較検討できる。

また、右端の画像は、記帳ノートの画像である。記帳ノートは、考古遺物の実測図に近いイメージで考えていただければよいと思う。研究者が木簡を観察し、墨痕を解釈しながら書き留めていくもので、木簡上の文字に対する最初の観察記録であるとともに、

筆遣いのように実物をじっくりと観察しなければ得られない情報まで盛り込んだ記録であるとも言うことができる。

木簡上の位置情報

木簡字典で木簡の詳細画像を表示すると、画像の右側にコントロール用のボタンが表示される(図4)。「ご利用方法」のところで説明されているように、画像種類の切り替え、上下左右に動かす、あるいは拡大・縮小を指示できる。

また、文字の画像の上にマウスのポインタを合わせると、その文字を読み取った結果の文字が示される。これは、ポインタ近くの文字を表示するもので、複数文字を表示することもある。木簡の中での各文字の位置が座標として記録され、GIS(地理情報システム)で扱う情報のように処理しているもので、多くの発展が期待される取り扱い手法である。



図4 木簡字典での拡大画面

詳細情報との連携

木簡字典では、文字で検索した後、その木簡に関する詳細情報を表示させることができる。「詳細」で表示される内容は、その文字が書かれている木簡について検索した、木簡データベースの内容と同じである。

また、「木簡の形や発掘場所、木簡の内容で検索する」のボタンをクリックすることで、細かな条件を付加した検索を行うことができる。これは、木簡の形、出土地域名、木簡の内容、地域で選ぶ、の各カテゴリーあるいはそれらの組み合わせで指定するもので、木簡データベースにおけるフィールド指定検索と同等である。ただし、ここでは、説明の図を添えたり、地図上での指定を可能にしたりと、わかりやすいユーザーインターフェイスを実現している。



図5 木簡字典しづり込み検索の条件指定、木簡の形

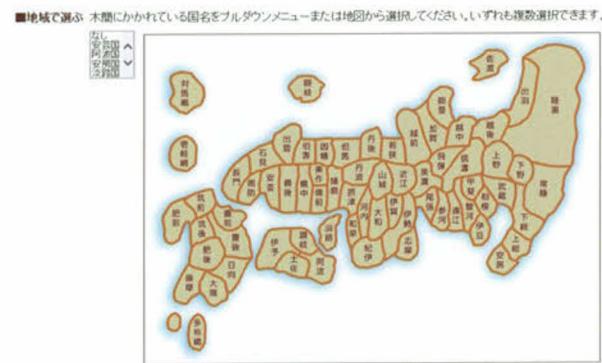


図6 木簡字典しづり込み検索の条件指定、地域で選ぶ

多言語対応

木簡字典は、検索画面等の説明を日本語だけではなく、韓国語、中国語、英語によっても提供するサービスを開始した。データベース中の説明文章、クリックするためのボタンに表示されている文字、図のタイトル、フィールドの名称などが翻訳されている。

以下、フィールド名の対応を日本語、韓国語、中国語、英語の順に示す。

【木簡番号】	【목간번호】	【木簡编号】	【Accession number】
【本文】	【본문】	【正文】	【Text】
【型式番号】	【형식번호】	【外形编号】	【Form No.】
【遺跡名】	【유적명】	【遗迹名称】	【Site Name】
【調査主体】	【발굴주체】	【调查主体】	【Investigating Party】
【発掘次数】	【발굴차수】	【发掘次数】	【Excavation No.】
【地区名】	【지구명】	【地区名称】	【Excavation Precinct】
【遺構番号】	【유구번호】	【遺构编号】	【Feature No.】

【寸法 (ミリ)】 【ヨギ(밀리미터)】 【尺寸 (毫米)】

【Description of Shape(mm)】

【所在地】 【소재지】 【所在地】 【Location】

【内容分類】 【내용분류】 【内容分类】 【Tablet Type】

【出典】 【출전】 【出典】

【Bibliographic Reference(s)】

【国郡郷里】 【국군향리】 (國郡郷里) 【国郡乡里】

【Ancient Province/County/Village/Hamlet Name】

【人名】 【인명】 【人名】 【Personal Name】

【和暦】 【일본연호】 【日本纪年】 【Japanese Era Name】

【西暦】 【서기】 【公历】 【Western Calendar】

【形状】 【형태】 【形状】 【Wooden Tablet Shapes】

【木取り】 【나무 절단방향】 【木料】 【Grain Direction】

【樹種】 【나무종류】 【树种】 【Tree Species】

【木簡説明】 【목간설명】 【木简说明】 【Explanation for this Item】

データの中身は、日本語のままである。【本文】情報のように翻訳不可能なデータもあるが、一部の情報は翻訳可能である。

多言語対応化する時にどこまでを訳すのかには、いろいろなやり方や立場があり、木簡字典はそのひとつの例を示していると考える。後に述べる Archaeologically Excavated Japanese Gardens と比較されたい。

木簡人名データベース

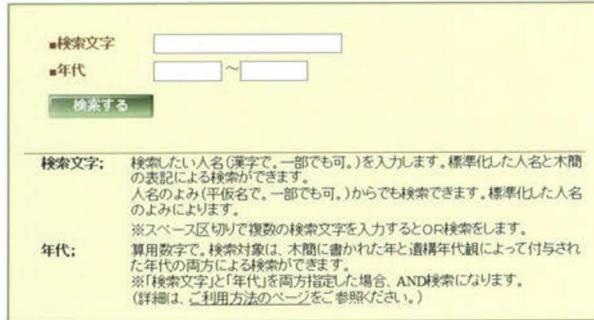
はじめに

木簡人名データベースは、タイトル画面と「開発の経緯」に説明があるように、日本学術振興会科学研究費補助金学術創成研究費「目録学の構築と古典学の再生－天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明－」（平成19年度から23年度、研究代表者・東京大学史料編纂所田島公教授）の一環として、東京大学史料編纂所と奈良文化財研究所が共同で開発したものである。

検索の実際

検索画面では、2種類の指定が可能である。検索文字の欄では、人名を指定する。

奈良文化財研究所 木簡人名データベース



■検索文字

■年代 ~

検索する

検索文字: 検索したい人名(漢字で、一部でも可。)を入力します。標準化した人名と木簡の表記による検索ができます。
人名のよみ(平仮名で、一部でも可。)からでも検索できます。標準化した人名のよみによります。
※スペース区切りで複数の検索文字を入力するとOR検索をします。
算用数字で、検索対象は、木簡に書かれた年と遭構年代観によって付与された年代の両方による検索ができます。
※「検索文字」と「年代」を両方指定した場合、AND検索になります。
(詳細は、[利用方法のページ](#)をご参照ください。)

図7 木簡人名データベース検索画面

ここでの「人名」は、木簡上の表記だけではなく、標準化されたものも指定可能となっている。人の名前は時期によって変更となることがある。改姓や改名を跡付けることが可能であれば、最もその人をよく代表している名前を標準化した人名とすることができる。もちろん、実際に断片的な情報として立ち現れる木簡上の名前にて個々人の同定をしていくことは困難な作業である。

この標準化という考え方は、木簡人名に限らず、データベースを構築していく上でとても重要な考え方である。

一覧画面は、次のフィールドからなる。

【通し番号】

(これは、その都度生成されるもので本来のフィールドではない。)

「詳細」のボタン

【人名】

【よみ】

【西暦】

「詳細」ボタンを押すと

トップに【人名】【よみ】が挙げられ、次いで

【通し番号】

(これは、その都度生成されるもので本来のフィールドではない。)

【和暦・西暦】

【説明】

【位階】

【木簡表記】

【遺構年代観】

【木簡情報】

の各フィールドを表示する。

【説明】の部分が、その木簡についての説明と、その人物についての説明からなる。人についての説明は重複記載される。

例えば、「吉備」と検索すると、図8のように、人名が、

吉備 1

吉備 2

吉備内親王 0

吉備命婦 0

吉備朝臣泉 0

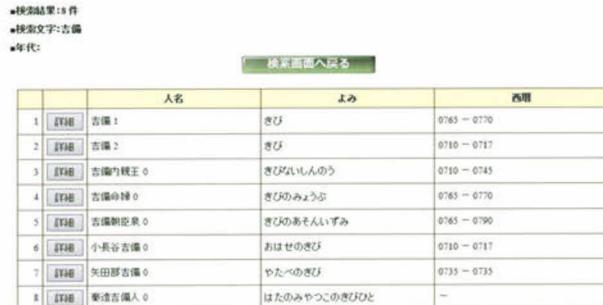
小長谷吉備 0

矢田部吉備 0

秦造吉備人 0

と表現される。

奈良文化財研究所 木簡人名データベース



検索結果: 8 件			
検索文字: 吉備			
年代:			
1	吉備 1	きび	765 ~ 770
2	吉備 2	きび	710 ~ 717
3	吉備内親王 0	きびのいしんのう	710 ~ 745
4	吉備命婦 0	きびのめうぶ	765 ~ 770
5	吉備朝臣泉 0	きびのあそんいすみ	765 ~ 790
6	小長谷吉備 0	おはせのきび	710 ~ 717
7	矢田部吉備 0	やたべのきび	735 ~ 773
8	秦造吉備人 0	はたのみやつこのきびひと	-

図8 木簡人名データベースで「吉備」を検索

これら8人はそれぞれ別人と考えられる8名ということになる。すなわち、「吉備」とだけ表現されている人物もそれぞれ別人と考えられることを表している。吉備1は、765から770年ころの木簡での記述、吉備2は、710から717年ころの木簡での記述と判断されているためである。

木簡に年紀が書かれていることは多くはなく、完全な形で残されていることはさらに少ないので、木簡の本文のみで年代を決定していくのには限界がある。出土遺構の検討や共伴遺物から、年

代の推定幅を狭めていかなくてはならない。直接の証拠と間接の証拠を並べて検討できることも、この木簡人名データベースの特徴である。

史料に登場するような著名な人を木簡の記載の中に見つける喜びもあれば、いわば普通の人の日常的な行動に接近する楽しみもある。従来の人名事典に現れてこない人物を明らかにすることができる資料として、木簡がいかに重要であるかがよくわかる。

先の「吉備」で検索して得た8名の中から、ひとりを選ぶと下記のような詳細画面を得る。

奈良文化財研究所 木簡人名データベース

■検索結果: 63 件
■検索文字: 吉備
■年代:
先頭 前件 次件 後件 一覧へ戻る 検索画面へ戻る

人名	小長谷吉備①
よみ	おはせのきび

	和暦-西暦	説明	伝記	木簡表記	造営年代範	木簡情報
1	10月14日 10.14	内親王に進上された米1升を 受け取った。		小長谷吉備	和暦1年-慶龜3年(10-112年) (木簡:和興4年-慶龜3年)(木 簡:11-117年)	木簡

図9 木簡人名データベース詳細画面

ある特定の人物に関する木簡が複数あれば、複数の木簡に関する情報が表示される。吉備内親王では10件が表示される。

それぞれの木簡についての情報を得たい場合は、右端の欄にある「木簡」のボタンをクリックすることで、木簡ごとの詳細情報へとリンクしている。また、その先、木簡字典へもリンクしているので、関係する検索を続けて行うことができる構造となっている。

人名のシソーラス

先に少し述べたが、人名に関するデータベースを作成することは、様々な分野で取り組まれている。人名に関するデータベースということでの共通性と、それぞれが対象とする人名の性質の違いによる特性とがある。著名なものに、ゲティ財団による芸術家リスト **ULAN** がある。

基本的に、注意すべき点は、

- ・表記の揺れを考慮して、人名表記の標準形を決める。
- ・人名の変化を追跡する。
- ・ペンネームのような異名を検討する。
- ・同姓同名の別人物に注意する。
- ・ひとつの人名が複数の人からなるグループにつけられている場合に留意する。

・架空や想像上の人名、人間ではないものにつけられた人名かどうかを検討する。

これらの注意点は、資料の少ない古代の人名に適用するには無理がある場合が多いと考えられるが、常に注意が必要である。

木簡では、人名が肩書との組み合わせや肩書だけで表記されていることが多く、木簡人名データベースはそれに配慮したデータ入力を行っている。

全国木簡出土遺跡・報告書データベース

はじめに

全国木簡出土遺跡・報告書データベースは、木簡に関するデータベース群の一角を成す。

このデータベースは、全国の木簡が出土した遺跡を一覧し、それに関する報告書等の情報を集成するもので、『埋蔵文化財ニュース 114 全国木簡出土遺跡・報告書総覧』(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター、2004) の成果をデータベース化したものが元になっている。その後、データベースへのデータ追加と更新を行っている。

冊子体としても内容を更新した『埋蔵文化財ニュース 154 全国木簡出土遺跡・報告書総覧 II』(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター、2014) が刊行され、データベースへの反映が続いている。

木簡の持つ内的・外的な属性を、多角的に分析するにあたっては、基礎資料である遺跡情報や文献情報が欠かせない。そのための資料として整備されているのが、この全国木簡出土遺跡・報告書データベースである。

2014年3月現在、収録データは、発掘調査件数2,418件、遺跡数1,130件、木簡出土点数341,335件となっている。

フィールド構成

ひとつのレコードは、木簡が出土している、ひとつの遺跡なし、ひとつの発掘調査次数の調査を単位としている。出土した木簡の点数に関するフィールドを参照すれば、遺跡や調査による出土数の偏りが大きいことがよくわかる。

奈良文化財研究所 全国木簡出土遺跡・報告書データベース	
一覧	0. [全件] 2418件
一覧	1. [平城宮] 167件
↑上へ	↓下へ
↑ボタンでカードをめくります。一覧表ボタンで一覧表に戻ります。	
遺跡名	平城宮跡(241次)造酒司地区
いせきめい	へいじょうきゅう
遺跡ID	29201002
自治体コード	29201 所在地 奈良県奈良市
遺跡の種類	古代宮殿・官衙
発掘年月	93.4-93.6
発掘機関	奈良国立文化財研究所
報告書等文献	奈文研「1993年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報」1994年 奈文研「奈良国立文化財研究所年報1994」1994年 奈文研「平城宮発掘調査出土木簡概報」1994年 寺崎保広「奈良・平城宮跡」(『木簡研究』16、1994年)
関係文献	172
真	
備考	

[「木簡データベース」へ](#) [「木簡字典」へ](#)

図10 全国木簡出土遺跡・報告書データベース詳細画面

全体のフィールド構成は、次の通りである。

【遺跡名】

【いせきめい】

【遺跡ID】

【自治体コード】

【所在地】

【遺跡の種類】

【発掘年月】

【出土点数】

【発掘機関】

【報告書等文献】

【関係文献】

これらすべてのフィールドについて、個別のあるいは関連づけての検索を行うことが可能であるとともに、フィールドを指定しない全文検索が用意されている。

また、データの記述についての統一も図られている。例えば【所在地】の記載はすべて、都道府県名から始まるようになっているので、フィールドを指定し、「大阪府」で検索すれば、大阪府内の木簡出土遺跡(発掘調査区)の一覧を得ることができる。

さらに、検索結果をテキストファイルで取り出すことも可能なので、ダウンロードしたデータを容易に活用することができ便利である。

他のデータベースへのリンク

木簡を出土した遺跡・調査ごとの文献情報が得られれば、次に参照することが多いのは、当然、木簡そのものの情報や木簡の文字の情報であろう。当データベースには、そのためのリンクとして木簡データベースと木簡字典へのリンクがつけられている。

データベースの統合的な運用と活用という観点からは、今後、全国木簡出土遺跡・報告書データベースから、遺跡データベースや報告書抄録データベースの関連データへの有機的なリンク付けを図ることが必要となってくると考えている。

墨書土器画像データベース [墨書土器字典]

はじめに

出土文字資料としては、出土点数もひとつの遺物に書かれている文字数においても、木簡が最大の資料である。しかし、木簡は木製品なので、木の保存に適した環境でなければ残らない。これに対し、墨書土器は、文字が土器の上に書かれているために、木製品よりも残りやすいという特徴がある。文字を書く契機は木簡と墨書土器では異なり、文字数や内容等も相違すると考えられ、この2種類の資料は相互に補完し合う存在でもある。そこで、出土文字資料を総合的に扱うために、墨書土器画像データベースが構築された。



図11 墨書土器字典タイトル画面

「墨書土器字典とは」のところに書かれているように、このデータベースは科学研究費による研究成果を盛り込んでいるとともに、多くの外部の方々の協力により構築しているものである。

フィールドの構成と画像の提供方法

フィールド構成は次の通りである。

【集成番号】

【本文】

【記載方法】

【遺跡名】

【調査主体】

【発掘次数】

【地区名】

【遺構番号】

【所在地】

【内容分類】

【出典】

【国郡郷里】

【人名】

【和暦】

【西暦】

【土器の種類】

【器種】

【部位】

出土文字資料のデータベースなので、木簡データベースや木簡字典を踏まえたフィールド構成となっている。【国郡郷里】【人名】

【和暦】【西暦】の部分の説明は木簡字典と同様である。

また、画像については、カラー画像、モノクロ画像、赤外画像、実測図が用意されている。木簡字典では記帳ノートであった部分が、実測図となっている。資料の性格が異なるので、同じ感光剤の写真が複数撮影されていることが多い。下に一例を掲げる。詳細表示の一部を構成し直して示した。

下の画像をクリックすると拡大表示できます。

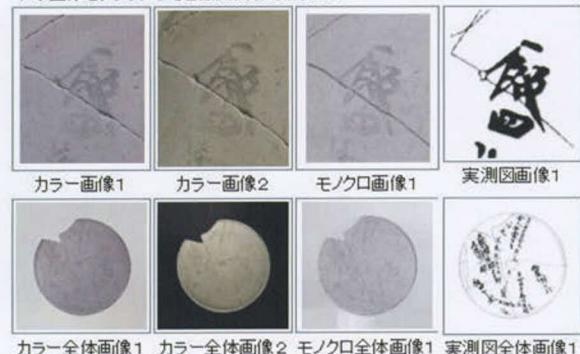


図12 墨書土器の画像比較

このように、同一箇所を複数の画像で検討できるのも、木簡字典と同様の機能である。実測図画像においては、土器破片の接合部分に表面が剥離した痕跡を認めて図に表現している。

拡大画像の中を上下左右に移動しながら観察できる機能も木簡字典と同様に用意されている。同じくマウスのポインタの位置に釈文を表示する機能も実現している。



図13 墨書土器の拡大画像

木簡ひろば

木簡ひろばは、「木簡に関する総合情報サイト」として作られたもので、次のコーナーから成る。

- ・展示室
- ・資料室
- ・読み書き
- ・フォーラム
- ・キッズコーナー
- ・その他リンク

展示室

展示室で提供しているのは、以下のページである。

地下の正倉院展 平城宮跡資料館で 2007 年から毎年開催している「地下の正倉院展」に関する資料。特に 2007 年と 2013 年の展覧会については、解説シートをダウンロードすることも可能。

木簡って何? 「木簡とは」と「木簡の理由」のページで、木簡について簡潔に説明している。

木簡ワールドへようこそ 「木簡ワールドへの招待」「明治の駒」「イギリスの木簡学者」「くっつく文字」「袋の中に衣が入ったような「袋」の字: 漢字の部品の場所とりゲーム」「古代木簡人名ツア (人名がよく書かれる木簡、人名に使われる漢字)」「木簡に出てくる食べもの」「木簡に使われている漢字」からなり、木簡にまつわる幅広い話題を公開している。

木簡関係用語集 木簡や木簡研究に関係した用語を集めた用語集で、現在 151 件の用語を納める。

天平びとの声を聞く 地下の正倉院・平城宮木簡のすべて (2010 特別展) 平城宮跡資料館での特別展に関する説明。

木簡関係情報館 出版物発行情報として、報告書を中心に基本となる 85 点をまず提示している。また、さらには出版年ごとに、木簡と関係する一般書 59 点を一覧にしており、1991 年まで遡ることができる。

資料室

資料室では、次の関連データベースについて簡単に紹介した上で、各データベースへのリンクを貼っている。それらは、

- ・木簡データベース
- ・木簡字典
- ・木簡出土遺跡・報告書データベース
- ・木簡字典 電子くずし字字典連携検索
- ・木簡人名データベース

- ・墨書き器字典

である。

読み書き

複数の科学研究費補助金による研究成果である木簡文字自動認識システム **Mokkanshop** に関するページ。

「**Mokkanshop のご紹介**」にあるように、**Mokkanshop** は、木簡画像鮮明化機能、OCR (光学文字認識) 機能、文脈説明支援データベースを備えている。

フォーラム

フォーラムは、登録メンバーによる木簡研究に関する情報交換の場である。

キッズコーナー

子供向けに、よく質問がある点についてわかりやすく解説している。「木簡ってなんだろう」「今も木簡があるの?」「木簡はなぜくさらなかつたの」から成る。

その他リンク

ここでは、木簡に関するサイトへのリンクを示している。

- ・韓国木簡のデータベース
- ・イギリス・ローマンタブレットのデータベース
- ・正倉院文書データベース

これらのリンク先のサイトを参照することによって、日本の木簡の外延的世界を広く知ることができる。

当然、地域・時代が異なり、文字が書かれている媒体や内容の性格の違いはあるが、木簡との共通点も多くあり、相互に参照することで研究の視野が広がることが期待される。

遺跡データベース

はじめに

遺跡の一覧を全国的に集成した資料は数が少なく、遺跡の種類を限定しないものとしては、文化庁が都道府県ごとに作成した『全国遺跡地図』がほぼ唯一のものである。ただこれらは、記述が簡単であることと、現在では刊行から時間が経過しているという問題があり、継続的に定期的に更新される全国規模の遺跡データベースの作成が必要であった。

遺跡データベースに関しては、『遺跡情報交換標準の研究 第3版』(奈良文化財研究所、2013) の中で詳しく解説されている。そこで、ここでは他のデータベースにない特徴にしぼって記述することとする。

なお、遺跡データベースは、報告書抄録データベースと連携して整備を進めているので、合わせて参照されたい。

図14 遺跡データベース検索結果

レコードの階層性

遺跡について考えた時に、ひとつの遺跡という概念も一様ではない。これでは、データベースを構築するにあたって、レコードの区分が問題となる。例えば、古墳は通常1基ごとにひとつの遺跡として認識されているが、形状が類似する方形周溝墓は、ひとつの遺跡の構成要素として捉えられることが多い。すなわち、遺跡は分類のカテゴリーとして均質でないという問題があり、一部はより広範な遺跡群という概念に近く、また反対に一部はより狭義の遺構群や遺構といった概念に近くなっている。

このような性質がある遺跡という概念をデータベースで表現する時に、階層的なデータベースを作成することが、理想としては望まれるとも考えられる。しかし、遺跡データベースを構築するための元の資料は、その記述の詳しさがまちまちで、統一されていないことが多い。簡略な記述の場合では、古墳群について群として何基といった程度の情報しか記されておらず、個々の古墳

に関する記載がないことがある。

遺跡データベースでは、階層について大きな概念から順に、

- ・集合 古墳群など
 - ・支群 古墳群の支群など
 - ・細群 古墳群の支群を細別した群など
 - ・個別 普通の遺跡、行政上・学術上一般に扱われる単位
 - ・地区 宮跡などで遺跡内の本來的区別
 - ・調査 個々の発掘調査による単位
 - ・トレンチ 発掘時のひとつつの調査区

を設けている

原典資料の制約が大きい中で、すべての遺跡について、集合・個別・地区・調査といった階層を考えたところで、実際にはデータを集めることができない。また、データベースの構造も複雑となってしまう。そこで論理的な階層性を無視して、集合的な遺跡群も個別的な遺跡も、またより細かな記載単位もすべて、同一平面上で捉えてデータベースを構築することとした。

当然のことながら、すべての遺跡は、個別には該当するが、その遺跡に対応する、より大きな集合などに当たるもの、あるいは、より小さな地区などに当たるもののが実際に存在するとは限らない。発掘調査されていない遺跡では当然、調査にあたる情報は存在していないからである。

これらの階層に関する区分は、【種別】というフィールドの値として入力している。そのレコードに対応するより大きな概念のレコードが存在している場合には、【群集遺跡 ID 番号】のフィールドに、対応レコードの ID を入力し、参照できるようにしている。

記述の標準化

一般的に、データベースの記載では用語や記述の仕方の標準化を図る必要がある。検索に耐えるデータベースを構築するためには、内容表記について、文字の選択、用語の選択と表記の統一、記述の仕方の吟味を避けて通る訳にはいきかない。これらに関する検討内容については、『遺跡情報交換標準の研究 第3版』に詳しく述べているので参照されたい。

標準化は、用語の統制とは趣旨が異なる。あくまでも検索において役に立つ情報への到達度を上げるための処置であり、ある用語の使用を強制するものではない。遺跡情報の記述に用いられる用語は、学史的な背景があって文字の使い分けがなされている場合がある。学説とも結びついて用語が設定されていることもあり、文字レベル・用語レベルとも完全に統一することが困難となつて

いる。

ある用語の使用が学会の趨勢となっているか否かを決められる場合であっても、個々の事例すべてについて入力時に検討することは不可能なので、用語の置き換えリストに従った書き換えを行うこととしている。例えば

ピュリアン、ピュラン、グレイバー、彫刻刀、彫刻刀形石器
→ 彫器

また、古墳に付設された「突出部」に限った用い方として、
造りだし、造り出し、造出し、作り出し

→ 造出

といった具合である。

ユニット

遺跡データベースにおいて、遺跡の内容を最も詳しく記載しているのが、【遺構概要】【遺物概要】【発掘概要】【その他概要】の各フィールドである。

【遺構概要】【遺物概要】では、抄録データベースで「ユニット」と呼んでいる記述方法に類した構成での記述方法を採用している。例えば、

町報17(弥生土器(畿内第V様式)+土師器(二重口縁壺)+須器+陶磁器ほか)。

この例では、【その他概要】の中で詳細を記載している典拠となる文献に書かれている遺物情報を、遺物の種類ごとに「+」で

つないで記述している。

詳細な記述

遺跡データベースでは、その遺跡に関するできるだけ詳細な情報を提供するようにしている。例をあげると、椿井大塚山古墳のレコードでは、【遺構概要】に 696 文字、【遺物概要】に 1,900 文字、【その他概要】に 1,047 文字の説明が入力されている。

ただ、ひとつのレコードに掲載できる情報には限りがあるし、何もかも詰め込むのでは、必要な情報の視認性が悪くなる。そこで、「個別」のレコードと「調査」のレコードを有機的に組み合わせることで、個々の調査に関する情報を「調査」のレコードに持たせ、まとめに当たる情報を「個別」のレコードに集約する方向でのデータ入力を心掛けている。

例えば、唐古・鍵遺跡は弥生時代研究史上、極めて重要な遺跡で多くの成果が今までに得られているので、調査次数ごとの「調査」のレコードを設けて、それぞれの情報はそこで詳しく記述すること努めている。その一部を示すと、あるひとつ調査について、

【名称(漢字)】唐古・鍵遺跡 第50次

【遺構概要】町年報4(弥生前期-大溝2+谷1/弥生中期-土坑11+大溝3+小溝5+柱穴1/壺棺3/弥生後期-井戸1+小溝2)

【遺物概要】 町年報4 (弥生土器+ヒスイ製勾玉など)

という記載のレコードを設け、別の調査については、

【名称(漢字)】唐古・鍵遺跡 第60次

【遺構概要】町年報6(弥生前期-貯蔵穴1(木器)+大溝3/弥生中期-大溝7+小溝2/弥生後期-大溝1/古墳前期-溝/古墳中期-環濠/古墳後期-河川2)。

町概要 15 (弥生+古墳+中世-溝+河川+土坑)

【遺物概要】町年報6(弥生前期-弥生土器+石器/古墳前期-布留型壺+小形丸底壺+木製輪軸盤)。

町概要 15 (弥生土器+土師器+須恵器+石器+木器)

と記述している。

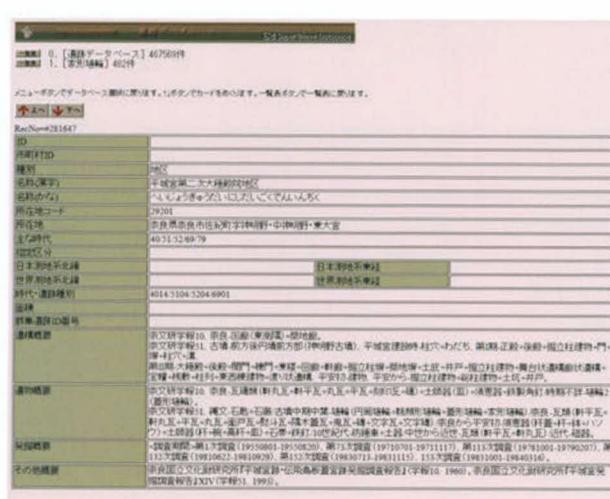


図15 遺跡データベース詳細表示

古代地方官衙関係遺跡データベース

はじめに

古代地方官衙関係遺跡データベースは、トップページに説明があるように、「古代（7世紀頃～11世紀頃を対象）の地方官衙遺跡、官衙関連遺跡、公的遺跡、豪族居宅遺跡などとされている古代地方官衙関係遺跡について、その遺跡の所在地・性格・主要な遺構・遺物の種類、報告書などの文献、建物遺構などの詳細データを収録したもので、遺跡データ、建物データ、文献データから構築され、それぞれに細かなフィールド設定になっている。

2014年3月現在で、遺跡データ1,646件、建物データ18,561件、文献データ15,708件を収録している。

遺跡データ

遺跡データは、基本データ、遺跡種別、官衙種別、遺構の部、遺物の部、画像参照からなる。以下、それぞれのフィールドを記す。

基本データとして、

【遺跡ID】【遺跡名】【ルビ】【所在地】【遺跡種類】【地形】【歴史環境】【存続時期】を表示する。

遺跡種別は、（【官衙】【官衙関連】【居宅】【寺院】【集落】【京】【莊園】【生産】【窯】【祭祀】【道】【その他】）について有無を表示する。

官衙種別は、（【宮】【国府】【郡衙】【郷家】【駅家】【城柵】【山城】【関】【牧】【津】【その他】【未定】）について有無を表示する。

遺構の部は、

基部構造について、【掘立柱建物】【礎石建物】【竪穴建物】【その他の基部構造の建物】の有無を表示、

規模について、【大型掘立柱建物】【廂付建物】【大型竪穴建物】の有無を表示、

種類について、【倉庫】【門】【櫓】の有無を表示、

遮蔽施設について、【掘立柱屏・柵】【築地屏】【材木屏】【土塁】

【その他の遮蔽施設】の有無を表示、

他の遺構について、【囲縄構・濠・壕】【井戸】【工房】

について有無を表示する。また、その他の遺構があればそれを表示する。

遺物の部は、【木簡】【墨書・刻書土器】【漆紙文書】【硯】【瓦】【施釉陶器】【畿内産・畿内系土師器】【輸入陶磁器】【大甕】【大量食膳具】【製塩土器】【腰帶具】【仏具】【漆・漆塗製品】【錢貨】【金属品生産】【紡織具】【祭祀具】【武器】【炭化米】について有無を表示するとともに、その他の遺物があればそれを表示する。

画像参照として、遺構図関係の図面を引用表示できる。図面の引用数は多い。

このように属性別に、ある要素の有無を一覧できるので、内容の的確な把握が容易となっている。

建物データ

凡例に詳しい説明がある。建物データは、基本データ、身舎データ、付帯施設データ、引用文献からなる。

基本データとして次のフィールドがある。

【遺跡名】【遺跡ID】【遺構番号】【遺構番号注】

【建物ID】【年代】【遺構期】【建物群の性格】【建物の性格】【建物の性格注】【基部構造】【建物形式】【平面型式】【屋根葺材】【屋根葺材注】【方位】【棟方向】【建物平面形】【廂形式分類】

【桁行間数】【（桁行）総長（m）】【面積（m²）】【梁行間数】【（梁行）総長（m）】【建物平面指數】

【身舎桁行間数】【身舎桁行総長（m）】【身舎面積（m²）】【身舎梁行間数】【身舎梁行総長】

桁行柱間（m）について、【廂の出①】【身舎柱間】【廂の出②】

梁行柱間（m）について、【廂の出①】【身舎柱間】【廂の出②】

【身舎桁行柱間寸法平均値】【身舎梁行柱間寸法平均値】

【平側廂の出率】

【総柱建物分類】【門形式分類】【床束建物分類】

【間仕切分類】【棟持柱分類】

【メモ】【画像参照】【建物画像注】

基本データ			
遺跡名	平城宮	遺跡ID	■102462
遺構番号	SB1800	建物ID	85058
遺構番号注			
年代	～長岡遷都後すぐか	遺構期	
建物群の性格	宮城十二門	屋根葺材	瓦葺
建物の性格注	朱雀門	屋根葺材注	
基部構造	礎石	方位	
建物形式	総柱建物	棟方向	東西
平面形式	門	建物平面形	
桁行間数	5	総長（m）	25.25
梁行間数	2	総長（m）	10.10
身舎桁行間数		身舎桁行総長（m）	
身舎梁行間数		身舎桁行総長（m）	
廂の出①		身舎柱間	廂の出②
桁行柱間（m）		5.05等間	
梁行柱間（m）		5.05等間	
身舎桁行柱間寸法平均値			平側廂の出率
身舎梁行柱間寸法平均値			
門形式分類	五間門		
メモ	基壇の版築がかなり進んだ段階で柱位置の周間に礎石据え付け穴を掘る。掘え付け穴に根石を置きながら丁寧に版築をした後、礎石を据える。SK14031ほか礎石落とし込み穴に打ち欠いた礎石片遺存		
画像参照	■102		
建物画像注			

図16 建物データ基本データの例（平城宮朱雀門）

身舎データは、その建物の構造によって表示されるフィールドが変化する。これは、いたずらに多くのフィールドを表示して煩雑になるのを避けるためである。

礎石建物の場合、礎石という特徴から、

【身舎礎石有無】【身舎根石有無】【身舎礎石形状】【身舎礎石材質】【礎石据付掘方形状】【身舎礎石基礎地業分類】が表示される。

身舎データ

身舎礎石有無	<input type="radio"/>
身舎根石有無	<input type="radio"/>
身舎礎石形状	自然石
身舎礎石材質	花崗岩
礎石据付掘方形状	円形
身舎礎石基礎地業分類	Ⅱ B類（総地業→壺地業）

図17 建物データ身舎データの例（平城宮朱雀門）

また、掘立柱建物の場合、

【身舎桁行柱筋の通り具合】 【率】

【身舎対向側柱筋の揃い具合】 【率】

【身舎柱掘方分類】

身舎柱掘方形状・向き では、向きに関する属性である、

【直行】 【非直行】

【隅柱直行】 【隅柱非直行】 【隅柱隅行】 【隅柱面取】

のそれぞれと、形状に関する属性である、

【方】 【長方】 【楕円】 【円】 【不整】 【他】 【L字】

のそれとからなる表を埋める形で内容が示される。

さらに、掘立柱関係のフィールドとして、

【身舎柱掘方平面規模 (m)】 【身舎柱掘方平面規模中間値】

【身舎柱掘方深さ (m)】 【身舎柱掘方深さ中間値】

【身舎掘立基礎固め】 【身舎柱抜取穴分類】 がある。

布掘り関係のフィールドとして、

【身舎布掘り平面形状】 【身舎布掘り断面形状】

【身舎布掘り幅中間値】 【身舎布掘り深さ中間値】

その他、【木割】 【身舎柱筋割状遺構】 といったフィールドがある。

これらのフィールドも常にすべてが表示されるのではなく。

身舎データ

身舎桁行柱筋の通り具合	その他	率
身舎対向側柱筋の揃い具合	その他	率
身舎柱掘方分類	壺（坪）掘り	

身舎柱掘方形状・向き

	方	長方	楕円	円	不整	他	L字
直行				2			
非直行							
直行							
隅 非直行							
柱 隅行							
面取							

身舎柱掘方平面規模 (m)	0.7
身舎柱掘方平面規模中間値	0.7
身舎柱掘方深さ (m)	0.6
身舎柱掘方深さ中間値	0.6
身舎柱径 (m)	0.4
身舎柱径中間値	0.4
木割	3.3
身舎柱根	遺存
身舎掘立基礎固め	根石

図18 建物データ身舎データの例（平城宮朱雀門東脇門）

廂がある場合、廂関係のフィールドが表示される。それらは、

【廂桁行柱筋の通り具合】 【率】

【平側・入側対向側柱筋の揃い具合】 【率】

【廂柱配置】 【廂柱掘方分類】

である。

廂柱掘方形状・向き では、向きに関する属性である、

【直行】 【非直行】

【隅柱直行】 【隅柱非直行】 【隅柱隅行】 【隅柱面取】

のそれぞれと、形状に関する属性である

【方】 【長方】 【楕円】 【円】 【不整】 【他】 【L字】

のそれとからなる表を埋める形で内容が示される。

さらに、他のフィールドとして、

【廂柱掘方規模】 【廂柱掘方平面規模 (m)】 【廂柱掘方平面規模中間値】

【廂柱掘方深さ (m)】 【廂柱掘方深さ中間値】 【廂柱径 (m)】

【廂掘立基礎固め】 【廂柱抜取穴分類】 がある。

これらのフィールドも常にすべてが表示されるのではなく、必要なものだけを表示して画面を見やすくする工夫がなされていることは、基本データや身舎データと同じである。

廊柱データ						
廊行柱筋の通り具合	不明	半				
平側・入側対向側柱筋の揃い具合	不明	半				
廊柱配置	柱筋型					
廊柱掘方分類	壺(坪)掘り					
廊柱掘方形状・向き						
方	長方	橢円	円	不整	他	L字
直行	10					
非直行						
直行	3					
隅非直行						
柱隅行						
面取						
廊柱掘方規模	身舎と同規模					
廊柱掘方平面規模(m)	0.70					
廊柱掘方平面規模中間値	0.70					
廊柱掘方深さ(m)	0.50					
廊柱掘方深さ中間値	0.50					
廊柱径(m)	0.30					
廊柱径中間値	0.30					
掘立基礎固め	不明					
廊柱抜取穴分類	不明					

図19 建物データ廊柱データの例 (平城京右京 SB1070)

付帯施設がある場合、付帯施設関係のフィールドが表示される。

付帯施設の種類として、

【縁】【裳階】【土廂】【軒支柱】【隣軒支柱】【壁柱】

【足場】【塀・柵】

【総地業】【基壇】【階段】【雨落溝】【溝】

【その他】【未定】

について、有無が表示される。

それぞれの要素ごとに特定のフィールドが用意されている場合があり、それらは次の通りである。

縁 【縁の分類】

裳階 例数が少ないため固有のフィールドなし

土廂 例数が少ないため固有のフィールドなし

軒支柱 外周柱としてのフィールド

壁柱 例数が少ないため固有のフィールドなし

足場 【足場分類】

ほか、外周柱、付帯柱としてのフィールドあり

塀・柵 外周柱として、また付帯柱としてのフィールドあり

総地業 【総地業長(m)】【総地業幅(m)】【総地業面積(m²)】

【総地業深さ(m)】【総地業版築有無】

基壇 【基壇築成】【基壇外装】

【基壇長(m)】【基壇幅(m)】【基壇面積(m²)】

【基壇高(m)】【基壇の出】【基壇版築有無】
 階段 【階段の出】【階段位置】【階段築成】
 雨落溝、溝 【溝位置】【溝護岸材質】
 【溝幅(m)】【溝深さ(m)】【軒の出・雨落溝距離】
 外周柱に当たる場合のフィールドとして、
 【外周柱穴列位置】【外周柱穴列注】がある。
 付帯柱に当たる場合のフィールドとして、
 【付帯柱配置】【付帯柱穴規格】がある。
 また、【メモ】フィールドがあり、グループ分けできない情報などについて記述している。

付帯施設データ

付帯施設の種類

縁	<input type="checkbox"/>	裳階	<input type="checkbox"/>	土廂	<input type="checkbox"/>
軒支柱	<input type="checkbox"/>	隣軒支柱	<input type="checkbox"/>	壁柱	<input type="checkbox"/>
足場	<input checked="" type="radio"/>	塀・柵	<input type="checkbox"/>	基壇	<input checked="" type="radio"/>
総地業	<input checked="" type="radio"/>	雨落溝	<input type="checkbox"/>	溝	<input type="checkbox"/>
		その他	<input type="checkbox"/>	未定	<input type="checkbox"/>

足場分類

外周柱穴列位置

総地業長(m)	31.9
総地業幅(m)	16.6
総地業面積(m ²)	529.54
総地業深さ(m)	1.5~1.6
総地業版築有無	有り
基壇築成	盛土基壇
基壇外装	壇正積か
基壇長(m)	(33.25)
基壇幅(m)	(18.10)
基壇面積(m ²)	601.825
基壇高(m)	(1.33)
基壇の出	(4)
基壇版築有無	有り

メモ

足場6S14040は柱の四方を囲む型、S814000・14010・14020・14030は基壇を取り囲み、門と柱筋をそろえる。柱二本を組にし、間に板を渡したものか。遺構としては確認出来ないが、おそらく壇正積み基壇で階段は成0.9尺の5段(高さ4.5尺)と推定。

図20 建物データ付帯施設データの例 (平城宮朱雀門脇門)

引用文献については、

【文献ID】【著者名】【書名・雑誌名】【発行所】【発行年】が示される。

用語の統制

建物関係のフィールドにおいては、検索時に検索語をリストか

ら選ぶ形で指定するようになっている。

基本データでは、

【基部構造】

「掘立」「礎石」「掘立・礎石併用」「その他」から選択もしくは、指定しない。

【建物形式】

「側柱建物」「総柱建物」「床束建物」「側柱・総柱併用」「側柱・床束併用」「回廊」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【建物平面形】

「方形」「平行四辺形」「直角台形」「台形」「不整形」「多角形」「その他」から選択、もしくは指定しない。

【平面形式】

「無廂」「四面廂」「三面廂」「二面廂」「片廂」「下屋」「門」「総柱（高床倉庫）」「総柱（低床張り建物）」「総柱（高床倉庫か低床張りか不明）」「楼閣」「櫓」「廂か否かなど不明」「回廊・軒廊」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【屋根葺材】

「瓦葺」「非瓦葺」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【廂形式分類】

「片面（平側）」「片面（妻側）」「二面（平側）」「二面（妻側）」「二面（L字全面）」「二面（L字隅欠き）」「三面（平+両妻）」「三面（両平+妻）」「三面（平+両妻の隅欠き）」「三面（両平+妻の隅欠き）」「四面（全面）」「四面（隅欠き）」「部分」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【総柱建物分類】

「内外柱穴同規模」「内部柱穴小規模（側通し柱）」「全体小規模（50cm以下・非高床）」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【門形式分類】

「二本柱（棟門・冠木門など）」「三本柱（2間）」「4本柱」「4本柱（薬医門）」「四脚門」「八脚門」「八脚門（変則）」「五間門」「五間門（変則）」「7間門」「鳥居」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【床束建物分類】

「IA類（柱筋交点型、添束無し）」「IB類（柱筋交点型、妻側添束有り）」「IC類（柱筋交点型、平側添束有り）」「ID類（柱筋交点型、妻・平側添束有り）」「IIA類（梁行柱筋型、梁行3間棟通り）」「IIB類（梁行柱筋型、妻側柱中間通り）」「III類（梁行柱筋型）」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【間仕切分類】

「IA類（2間棟通り型）」「IB類（3間棟通り型）」「II類（3間非柱筋型）」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【棟持柱分類】

「屋外独立棟持柱」「屋内棟持柱」「近接棟持柱」「壁付棟持柱」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

となっている。

一方、【桁行間数】や【桁行総長（m）】といった数値が入るフィールドでは、範囲指定を行うことができる。

身舎データでは、

【身舎桁行柱筋の通り具合率】【身舎布掘り幅中間値】【身舎柱径中間値】といった数値が入るフィールドでは、範囲指定を行うことができる一方、属性値を選択するフィールドでは以下のように、選択式となっている。

【身舎柱掘方分類】

「壺（坪）掘り」「布掘り」「壺・布併用」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【身舎布掘り平面形状】

「帯型（桁行一部のみ）」「帯型（梁行一部のみ）」「帯型（桁行平行）」「帯型（梁行平行）」「帯型（桁行・梁行混在）」「長方形型（二柱穴連続）」「口の字型」「L字型（3柱穴連続）」「L字型（多柱穴連続）」「コの字型」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【身舎布掘り断面形状】

「I類（単純布掘り）」「II類（段掘り+壺掘り）」「III類（布掘り一壺掘り）」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【身舎掘立基礎固め】

「礎板」「地下式礎石」「根石」「腕木・貫」「根巻石」「地中梁」「その他」「特になし」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【身舎柱抜取穴分類】

「抜取穴無し」「一部のみ抜取有り」「柱筋方向」「柱筋直交方向」「柱周開」「不定方向」「その他」「切取穴」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【身舎柱筋構造遺構】

「口の字形」「2穴直列」「多穴直列」「3穴L字形」「多穴L字形」「その他」から選択、もしくは指定しない。

【身舎礎石形状】

「自然石」「割石」「一部整形」「切石」「柱座加工（凸）」「柱座加工（凹）」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【身舎礎石材質】

「未定」「凝灰岩」「花崗岩」「砂岩」「その他」から選択、もし

くは指定しない。

【礎石据付掘方形状】

「不明」「なし」「方形」「円形」「不整円・方形」「布掘り」「長方形」「その他」から選択、もしくは指定しない。

【身舎礎石基礎地業分類】

「JB類(無し)」「IA類(盛土基壇のみ、掘込地業なし)」「IC類(総地業)」「IIA類(壺地業のみ)」「IIB類(総地業→壺地業)」「IIC類(壺地業→基壇築成)」「IIIA類(布地業のみ)」「IIIB類(総地業→布地業)」「IVA類(総地業(基壇)→円丘盛土)」「IVB類(総地業(基壇)→壺地業→円丘盛土)」「VA類(総地業+壺地業)」「VB類(総地業+布地業)」「VC類(布地業+壺地業)」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

データベースであると言える。

詳細なフィールド設定は、資料体を精緻に比較検討するのに適しているが、それだけにデータ入力のための資料調査と調整に多大な時間がかかっている。

廂データにおいても、

【廂柱行柱筋の通り具合率】【廂柱掘方深さ中間値】といった数値が入るフィールドでは、範囲指定を行って検索できる。一方、属性値を選択するフィールドでは以下のように、選択式となっている。

【廂柱掘方分類】

「壺(坪)掘り」「布掘り」「壺・布併用」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【廂柱掘方規模】

「身舎と同規模」「身舎よりやや小規模」「身舎の1/2以下」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

付帯施設データでは、付帯施設の種類は有無を選択する形となっている。属性値と統制語彙を選択するのは、

【付帯柱配置】

「柱筋型」「柱間中央型」「柱筋・柱間中央型」「不揃型」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【付帯柱穴規模】

「身舎と同規模」「身舎よりやや小規模」「身舎の1/2以下」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

構成の特性

古代地方官衙関係遺跡データベースでは、官衙関係遺跡の研究を進めるために、建物遺構の詳細な分析を可能とするような、極めて精緻なフィールドの構成、用語の意味と統制が行われている。

データベースのフィールド設定には、細かく項目立てていく方向性とざっくりとひとくくりにする方向性とがある。このデータベースは、細かく項目立て行く方向性でのひとつの到達点を示す

古代寺院遺跡データベース

はじめに

古代寺院遺跡データベースは、トップページにあるように、「古代（7世紀頃～11世紀頃を対象）の寺院跡とされている遺跡について、その遺跡の所在地・性格・主要な遺構・遺物の種類、報告書などの文献、建物遺構などの詳細データを収録したもの」、遺跡データ、建物データ、文献データから構築され、それぞれに細かなフィールド設定になっている。古代地方官衙関係遺跡データベース（以下、官衙のデータベース）と同様の構造である。

2014年3月現在で、遺跡データ1,266件、建物データ2,844件、文献データ13,982件となっている。

遺跡データ

遺跡データは、基本データ、遺構の部、遺物の部、画像参照からなり、官衙のデータベースにある「遺跡種別」と「官衙種別」に関する一群のフィールドは設定されていない。

基本データと遺構の部はそれぞれ、官衙のデータベースと同じフィールド構造である。遺物の部については、官衙のデータベースと同じ構成に、【鎮壇具】についての有無を示すフィールドが加わっている。

画像参照については、官衙のデータベースと同じフィールド構造である。

古代寺院遺跡データベース [遺跡データ]

二 0. [全件] 1200件
三 1. [選択] 2件


文部省データ参照 遺跡データ一覧検索 トップへ

九九九

基本データ

遺跡ID: 140355
遺跡名: 遺跡主寺
古文: かれいしゃとうじ
所在町: 会津若松市若松町
遺跡地番: 今井、藤井、今井、福寺
地番: 遺跡地番の変遷
歴史的背景: 七世紀一四世紀後半（一品三級三井）。最初の作創りとくいちがい。平城宮（平城跡）以前に創建有り。前
身寺跡（一ノ井北山寺（星石古寺））一品三級寺となる
存続期間: 7世紀前半（星石古寺）～

6.1-001

獨立石碑物	<input checked="" type="checkbox"/>	碑石碑物	<input type="checkbox"/>	龜趺碑物	<input type="checkbox"/>
その他の塔礎碑物	<input type="checkbox"/>				
大型圓柱碑物	<input type="checkbox"/>	圓柱碑物	<input checked="" type="checkbox"/>	大型圓柱碑物	<input type="checkbox"/>
金剛	<input type="checkbox"/>	門	<input type="checkbox"/>	幢	<input type="checkbox"/>
獨立石碑・幢	<input type="checkbox"/>	龜趺碑	<input type="checkbox"/>	村木碑	<input type="checkbox"/>
土基	<input type="checkbox"/>	その他の塔礎碑物	<input type="checkbox"/>		
圓柱碑・幢・村木	<input type="checkbox"/>				
その他の遺跡	<input type="checkbox"/>				

6.1-002

木造	<input type="checkbox"/>	漆器・御食土器	<input type="checkbox"/>	漆器の漆器
陶器・土器	<input type="checkbox"/>	漆器	<input checked="" type="checkbox"/>	漆器の漆器
鐵器	<input type="checkbox"/>	漆器	<input type="checkbox"/>	漆器
金剛	<input type="checkbox"/>	漆器	<input type="checkbox"/>	漆器
大型圓柱	<input type="checkbox"/>	漆器	<input type="checkbox"/>	漆器
門	<input type="checkbox"/>	漆器	<input type="checkbox"/>	漆器
幢	<input type="checkbox"/>	漆器	<input type="checkbox"/>	漆器
龜趺	<input type="checkbox"/>	漆器	<input type="checkbox"/>	漆器
村木	<input type="checkbox"/>	漆器	<input type="checkbox"/>	漆器
生鐵品・生鉄	<input type="checkbox"/>	漆器	<input type="checkbox"/>	漆器
石器	<input type="checkbox"/>	漆器	<input type="checkbox"/>	漆器
その他の遺物	<input type="checkbox"/>	漆器	<input type="checkbox"/>	漆器

属性検索

1. 遺跡名	140355	文獻ID: 13877
2. 遺跡地番	会津若松市若松町	文獻ID: 13874
3. 遺跡の古文	かれいしゃとうじ	文獻ID: 13747

図21 古代寺院遺跡データベース遺跡データ

建物データ

建物データは、官衙のデータベースと同じ構造をしている。これは、官衙と考えられる遺構も寺院と考えられる遺構も、同時代の比較的大規模な建物を対象としているという共通性もあり、同じ視点で検索して比較・検討できるようになっている。

図22 古代寺院遺跡データベース建物データ

文献データ

文献データは、官衙のデータベースと同じ構造である。

構成の特性

このように古代寺院遺跡データベースは、古代地方官衙関係遺跡データベースと合わせて利用することで、よりその情報を活かすことができるようになっている。

建物基壇の規模が大きかつたり配置が規則的であった時に、ただちに官衙関係遺跡なのか寺院遺跡なのかを決定できない場合もあるので、ほぼ同一のフィールド構成で対比できる利点は大きいであろう。

官衙遺跡整備状況データベース

はじめに

官衙遺跡整備状況データベースは、『埋蔵文化財ニュース 111 官衙遺跡整備状況』(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター、2003)で公表したデータをデータベース化したものである。原資料は凡例にあるように、「全国の宮殿・官衙および関係遺跡のうち、すでに整備されたもの、あるいは現在整備中のものについて、その具体的な状況をアンケートにより収集し、収録したもの」で、データベースは、冊子刊行後にも、改訂を行っている。

フィールド構成

フィールド構成は次の通りである。

【レコード識別記号】

【都道府県名】

【遺跡名称】

【所在地】

【指定区分】

【指定年月日】

【指定名称】

【所有者(管理者)】

【遺跡の概要】

【整備対象面積】

【整備期間】

【整備事業の概要】

【復元建物の概要】

【防災設備設置状況】

【ガイドンス施設などの設置状況】

【整備の時期区分、全体整備で心がけた点】

【整備で検討・工夫した点: (他の整備事例などと異なる点など)】

【検討工夫したため苦労した点: (材料調達・施工上など)】

【整備で生じた問題点: (学術上・管理上など)】

【活用上実施しているイベントなど】

【管理運営上抱えている現在の問題点・今後の問題点】

【維持管理】

【臨時修理費】

【来場者又は入館者数】

【整備後の見学者の反応】

【当該遺跡保存整備専門文献: (発掘調査報告書を除く)】

【コメント】

官衙遺跡整備状況データベース

レコード数: 0.【官衙遺跡整備状況】59件
メニュー: ボタンでデータベース画面に戻ります。↓ボタンでカードをめります。一覧表示ボタンで一覧表示に戻ります。

↑上へ ↓下へ

レコード識別記号	A-000036
都道府県名	奈良県
遺跡名稱	難波宮跡 (くじらわきやうせき)
所在地	奈良市難波町高畠町・御陵町他
指定区分	特別史跡
指定年月日	昭和41年2月1日 (史跡)、昭和40年3月29日 (特別史跡)
指定名稱	難波宮跡 (くじらわきやうせき)
所有者 (管理者)	内閣文庫 (文化庁) 電話: (文化庁防災振興課) 03-5253-4111 (代) FAX: 03-5253-4112 (代) 電子メール: kunimori@nac.go.jp
整備の概要	大和三山に跨まれた奈良盆地の最南に位置する、難波宮 (842年) に飛鳥・難波宮跡よりこの地に遷都。わが國初の皇跡を備えた広大な都城跡。難波宮 (842年) が造営され、その中央部に宮跡が設けられる。和銅4 (710) 年の平城宮遷都まで15年間の歴史であった。宮は難波を源と開み、獨立田による大堤を組らせ、大堤の外側に水を貯め、内側を走らせる。飛鳥時代の水路を今も残す。その水路は、今も残る。その水路は、今も残る。
整備対象面積	204,470 平方メートル (22.8ヘクタール)
整備期間	1975年春～継続
整備事業の概要	天孫御遺跡の整備 (971年) に始まり、周囲遺跡の整備・騒動による平面表示、見学者用広場・園路の整備による整備 (～1981年) を行なった。その後、宮南西跡地に、内閣文庫官衙跡区の整備 (1984. 88. 96) などもなっているが、宮跡内には未賃地地図も残り、なまなましい整備がなされている。
復元建物の概要	なし。
ガイドンス施設などの設置状況	見学者用広場に整備する設置。奈良市ナラ本郷 (難波市ナラ本郷) に所在する奈良文化財研究所飛鳥難波宮跡地内に設置する。見学者用広場・園路の整備を待たせている。
整備の時期区分、全体整備で心がけた点	初期区分を表示するに至っていない。
活用上実施しているイベントなど	特になし。
管理運営上抱えている現状の問題点・今後の問題点	現在在る民有地ではなあ耕作を行っているため、見学者と交渉する。
維持管理	文化庁
来場者又は入館者数	8万整備地については未集計 飛鳥難波宮跡発掘調査部資料室4,480人 (2001年度実績)
整備後の見学者の反応	大和宮跡前広場に立つと、周囲に立地物がないことが、かえって天和三山に跨まれた都の広さを実感させる。
当該遺跡保存整備専門文献: (発掘調査報告書を除く)	『奈良市立文化財研究所年報』奈良国立文化財研究所 (1976年～2000年) 『遺跡整備叢書』奈良国立文化財研究所 (1987年)

図23 官衙遺跡整備状況データベースの詳細画面

また、冊子体にはないデータベース版だけの特徴として、いくつかの遺跡について画像が添付されていて、整備状況が理解しやすいようになっている。

記述の特徴

このデータベースは、各フィールドの記載内容が文章記述となっているものが多く、全体に1レコードの説明が詳しく文字数が多いデータとなっている。このため、フィールド指定・非指定を問わず、全文検索機能を活用することで、冊子体では特に探すのに時間がかかる情報でも効率的にアクセスが可能となっている。

フィールドを指定しない検索では、全フィールドが対象となるので、データベース中のどこに記述されているか、事前の判断がつかないような内容であっても容易に検索可能である。

遺跡の斜面保護データベース

はじめに

遺跡の斜面保護データベースは、『埋蔵文化財ニュース 119 官遺跡の斜面保護 遺跡の保存工学的研究』(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター、2005) で公表したデータをデータベース化したものである。

埋蔵文化財ニュースには、個別事例の資料だけではなく、まとめてあたる記事も掲載されているので、データベースを公開するにあたりそれらのページの内容も参照できるようにしている。

フィールド構成

フィールド構成は次の通りである。

【レコード識別記号】

【遺跡名】

【所在地】

【斜面の分類】

【斜面の概要】

【施行年月】

【対策工種】

【工事概要】

【特記事項】

【事業主体】

【事業目的】

【遺跡概要】

【評価】

各レコードに、数点ずつの画像を添付している。

遺跡の斜面保護データベース		
レコード識別記号 0-000010		
メニュー ボタンでデータベース選択に戻ります。↓ボタンでカードをめくります。一覧表ボタンで一覧表に戻ります。		
▲上へ ▼下へ		
レコード識別記号	0-000010	
遺跡名	史跡宝塚古墳	
所在地	三重県松阪市宝塚町・光町	
斜面の分類	自然地形としての自然斜面	
斜面の概要	自然斜面	
施行年月	1999年度	
対策工種	種子吹付工・石積擁壁工	
工事概要	(ひがごくへき度/面積541平米) 斜面基底部に護石積擁壁を施工し、その上部に盛土整形した後、種子を吹付けを行った。	
特記事項	斜面条件から斜面の安定化を確保するため擁壁を設けた。	
事業主体	松阪市教育委員会	
事業目的	文化財を活かした地域づくりを図るため、遺跡の保存並びに活用整備を図る。	
設計監査	監査を実施してある。監査報告書は、ある1世紀初めの1号墳と創立員式的大方墳円墳である1世紀初めの2号墳など、いわゆる貴重な古墳を有する。1号墳出土し石からは船形埴輪や家形埴輪、2号墳出土した。	
評価	史跡指定地内にあって違和感のない景観となっている。	
画像番号	画像	キャプション
1		斜面図、平面図
2		(1999年9月)
3		上部盛土整形部分に種子が活着 (2000年2月)
4		下部石積擁壁、上部盛土整形完成後、種子吹付工施工前。 (2000年1月)

図24 遺跡の斜面保護データベース詳細画面の例

記述の特徴

工事の説明についての記述は長くなることもある。例えば、名越切通については、全体で3,225文字に及ぶデータが記載されている。このため遺跡の斜面保護工事に用いられた薬剤名での検索などに、データベースが提供している全文検索機能が役に立つと考えられる。

今後に向けて

このデータベースは現在のところ、レコード数がごくわずかである。

整備事業は個別の作業ごとの差異が大きいとも考えられるが、工法ごとに比較したりといったデータベースや電子化された資料ならではの検討によって、工事の計画立案に資することが期待できる。

発掘庭園データベース

はじめに

庭園の遺構にも現在まで遺存しているものと、埋もれてしまつて発掘調査で発見されるものがある。発掘調査によって発見された庭園を集成したものが、発掘庭園データベースである。

2014年3月現在、338件が登録されている。

フィールド構成

詳細画面で表示されるフィールドは、以下の通りである。

【コード番号】
【庭園名称】
【所在地】
【遺跡種別】
【様式】
【築造時期】
【築造世紀】
【構成要素】
【発掘調査年度】
【発掘調査機関】

【所有者】
【管理者】
【指定種別】
【指定種別2】
【指定名称】
【指定面積(m ²)】
【指定年月】
【追加指定等】
【現状】
【発掘調査件名】
【参考文献】
【絵画資料】
【史料】
【発掘調査報告書】
【発掘調査機関】
【発掘調査年度】
【復元整備】
【様式】
【遺構概要】
【構成要素】
【立地】
【沿革】
【築造時期】
【築造時期コード】
【築造世紀】
【焼絶時期】
【焼絶世紀】
【性格】
【遺跡種別】
【所在】
【地図番号】
【旧コード番号】

奈良国立文化財研究所 発掘庭園データベース ERI-ReportDB Database		
二箇所 0...[発掘庭園] 338件		
メニューボタンでデータベース選択に戻ります。1:ボタンでカードをめくります。一覧表ボタンで一覧表に戻ります。		
↑上へ	↓下へ	
RecNo=218		
コード番号	29010	
庭園名称	平城京跡左京三条二坊六坪宮跡庭園	
所在地	奈良県奈良市三条大路一丁目	
遺跡種別	宮殿	
様式	造りの庭	
築造時期	奈良	
築造世紀	8世紀	
構成要素	流れ(石敷)・景石・岩島・水性植物椿樹・導水木橋・排水木橋	
発掘調査年度	1975-1977・1979	
発掘調査機関	奈良国立文化財研究所	
画像番号	画像	キャプション
1		湛水した園池(南西上方から)
2		園池東岸(北西から)
3		園池西岸の岩島(南から)
4		園池北端の導水木橋と石囲い水溜め(南から)

図25 発掘庭園データベース詳細画面

このデータベースでは、表示されているフィールド以外のフィールドも検索対象とすることが可能である。検索対象となるフィールドは、検索画面でフィールド指定することでわかる。それらは、

【庭園名称】

【名称読み】

【コード番号】

【所在地】

記述の特徴

【遺跡種別】【様式】【構成要素】といったフィールドでは、入力している用語についての標準化が図られている。

Archaeologically Excavated Japanese Gardens

はじめに

発掘庭園データベースを英語化したものが、このデータベースである。内容だけではなく、ボタンなどの部品も英語化されている。

フィールドの構成

詳細画面で表示されるフィールドの英語版と日本語版との対照は次の通りである。ただし、表示される順番は英語版と日本語版では異なっている。

【code】	【コード番号】
【name】	【庭園名称】
【address】	【所在地】
【category】	【遺跡種別】
【style】	【様式】
【age】	【築造時期】
【century】	【築造世紀】
【elements】	【構成要素】
【excavation years】	【発掘調査年度】
【excavation organization】	【発掘調査機関】

National Research Institute for Cultural Properties, Nara Archaeologically Excavated Japanese Gardens Database E-View Version Database		
List of brief records 0. [garden] 338 data hit		
Up	Down	
RecNo=218		
address	Nara City, Nara Prefecture	
code	29010	
style	stream garden	
name	palace garden at Block 6, East Second Ward on Third Street, Nara capital site	
elements	stream (stone paved), ornamental stones, rock island, pots for water plants, wooden conduit for water supply, drainage wooden conduit	
age	Nara period	
category	palace	
excavation years	1975, 1977, 1979	
excavation organization	Nara National Cultural Properties Research Institute	
century	5th	
Picture Number	Picture	Caption
1		
2		
3		
4		

図26 発掘庭園データベース英語版

図26は、日本語版の発掘庭園データベースで示したもの(図25)と同じ構造を示す。日本語版と英語版が完全に対応していることがわかる。

多言語対応について追記

多言語化についての考え方については、木簡字典のところでも述べた。

木簡字典は4か国語対応であるものの、多言語化されているのは、文字、図のタイトル、フィールドの名称等であって、データの中身そのものは、日本語のみであった。

対するに、発掘庭園データベースと **Archaeologically Excavated Japanese Gardens** は、2か国語の対応であるが、中身も含めて翻訳されている点が大きく異なる。これは、データの性質の差によるところが大きい。

図25と図26にあげたレコードの内容を比較すると、

century/築造世紀 8th/8世紀

のように、容易に対応できるものだけでなく、

address/所在地

Nara City, Nara Prefecture/奈良県奈良市三条大路一丁目
のような、対応付けもなされている。

さらに、

elements/構成要素

stream (stone paved), ornamental stones, rock island, pots for water plants, wooden conduit for water supply, drainage wooden conduit/流れ
(石敷)・景石・岩島・水性植物植栽・導水木樋・排水木樋
では、術語の対応も正確にとられている。術語の翻訳にあたっては単純な翻訳ではその内容を伝えられない、このために次に述べる辞典が用意されている。

Japanese Garden Dictionary

はじめに

発掘庭園データベースの英語版として Archaeologically Excavated Japanese Gardens を提供するだけでは、利用者が使いやすいとは言えない。日本の庭園の構成要素などに関する用語の知識が必要である。

こういった要望に応えるため、『ONO Kenkichi and Walter EDWARDS 英対照日本庭園用語辞典 = Bilingual [Japanese & English] dictionary of Japanese garden terms』を元に作成されたのが、この Japanese Garden Dictionary であり、見出し語数は669語である。

構成

この辞典には、英訳された用語の ABC 順による索引と、用語の日本語読みをローマ字表記した時の ABC 順による索引という、ふたつの索引が用意されている。

ENGLISH ENTRY TITLE	KANJI/KANA	ROMANIZATION
abbot's quarters	方丈	hōjō
aggregate lantern →patchwork lantern	寄せ籠	yose dōrō
aka well	醤油井	akai
Akisato Ritō	秋里疊	Akisato Ritō
Amanohashidate	天橋立	Amanohashidate
Amida hall	阿弥陀堂	Amidado
angler fish basin	鮎鱥形手水鉢	ankōgata chōzubachi
arbor	四阿	azumaya
arched bridge	反橋	sori bashi
arched stone bridge	反石橋	sori ishibashi
arching stone	枝形石	shigyōseki
armor pattern screen fence	鎧形塀垣	yoroiyata sodegaki
artificial hill	築山	tsukiyama

図27 日本庭園用語辞典英語索引

日本の庭園に関する用語は、英語に訳されただけではその内容を十分に理解することはできないので、用語の解説が必要となる。ひとつの例を図29に掲げる。

この「遣水」の例でわかるように、電子版の特性を活かして、関連項目（この場合「寝殿造庭園」と「作庭記」）へのリンクが張られているので、リンクをたどりながら、次々と関連する情報を得ることができるようになっている。

JAPANESE	KANJI/KANA	ENGLISH
agesudo	揚戸	hanging lattice gate
alba	合端	stone joint
aoi	柏生	double-trunked tree; pair-planting method
Aizu Matsudaira shien	会津松平氏庭園	garden at the detached mansion of the Matsudaira family, lords of the Aizu domain
ajiro gaki	縄代垣	diagonal mat fence
akadamaishi	赤玉石	red stone
akai	醤油井	soy sauce well
Akisato Ritō	秋里疊	Akisato Ritō
Amanohashidate	天橋立	Amanohashidate
Amidado	阿弥陀堂	Amida hall
amigasa mon	蘆葦門	straw hat gate
ankōgata chōzubachi	鮎鱥形手水鉢	angler fish basin

図28 日本庭園用語辞典日本語索引

yarimizu
遣水

yarimizu stream

A comparatively narrow and shallow winding stream made in the garden. First used in shinden style gardens of the Heian period, the technique of using a small natural stream for its model is described in Sakuteiki in detail.

図29 日本庭園用語辞典用語説明の例

いくつかの項目では、図も添えられていて理解を助けるようになっている。

所蔵図書データベース

はじめに

奈良文化財研究所は20万点を超える図書を収蔵している。これらは、調査研究業務において参考図書として用いるためのものである。所蔵図書の中には、遺跡の発掘調査報告書や建造物の修理報告書のように、発行部数が少なく他の図書館等では所蔵していないものが多数含まれている。そこで蔵書を一般に公開して専門家の研究のみならず、広く一般の方々の要望にも答えることとしている。

所蔵の有無を調べるにあたっては、図書資料室に来て目録を検索するのでは、目的の図書がなかった時に無駄足となるなど効率が悪い。このため、インターネットを通じて所蔵図書データを公開しているのが、所蔵図書データベースである。

検索の実際

検索画面を選択すると、図 30 のような検索条件入力画面となる。

奈良文化財研究所所蔵図書データベース
検索条件入力(高機能検索)

検索条件入力 → 検索結果一覧 → 詳細表示 → 簡易検索 [利用規約](#)

検索開始(5)

検索対象表示
既読書月次表

すべて 平成 春季 秋季

検索履歴(5) [全削除](#)

検索開始(5) [入力クリア](#) [最終検索条件へ戻す](#) [分類件名検索](#) [新着順検索から検索](#) [\[検索\]](#)

検索語1 全ての項目 (1) (2)

検索語2 AND OR NOT(引く) (3) (4)

タイトル (3) (4)

検索語3 AND OR NOT(引く) (5)

全ての項目 (3) (6)

検索語4 AND OR NOT(引く) (7) (8)

著者名 (7) (8)

検索語5 AND OR NOT(引く) (9) (10)

出版者 (9) (10)

検索語ファイル名(複数件の検索用)

オプション オン オフ

図30 所蔵図書データベース検索条件入力画面

所蔵図書のデータベースとして通有な、書誌情報と所蔵情報を得ることができる。検索では、最初にヒットした本の一覧が表示される。



図31 所蔵図書データベース検索結果一覧

次に、ひとつの本を選ぶことによって、それに関する詳細な情報が得られる。



図32 所蔵図書データベース検索結果詳細

実際の利用にあたっては、奈良文化財研究所での図書が平城地区、藤原地区、飛鳥資料館の3か所に分かれています。等の特性を理解して活用いただければと思う。

報告書抄録データベース

はじめに

発掘調査報告書は、遺跡に関する情報を最も多く収録するところに、多くの場合、唯一のそして最終的な情報源でもある。近年、発掘調査の件数は年間 8,000 件あまりとなっており(『埋蔵文化財ニュース 157 号』(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター、2014))、年間に発行される発掘調査報告書の数は 1,800 冊から 2,000 冊に達している。

しかし、発掘調査報告書は発行部数が少ないこともあって、唯一にして最大の情報源でありながら、利用しやすい状況にあるとは言えない。また、全体では年間 20 万ページほどという情報量に達しており、誰もその全体像を把握することができない状態になっている。

このため、発掘調査報告書に各々の内容を簡潔にまとめた抄録を添付することで、記載内容が把握できるようになされている。そして、この抄録の検索が容易となるように、データベース化と公開を進めているのが報告書抄録データベースである。このデータベースの作成にあたっては、都道府県教育委員会や財團法人の埋蔵文化財センターから協力を得ている。

開発の経緯については、遺跡データベースと同じく、『遺跡情報交換標準の研究 第3版』(奈良文化財研究所、2013) を参照されたい。

検索の実際

検索の結果得られる一覧表示は図33のようなイメージである。

図33 報告書登録データベース一覧画面

ここで、左端の欄をクリックすることにより、各レコードそれぞれの詳細情報を見ることができます。

図34 報告書抄録データベース詳細画面

このデータベースにおいては、1 レコードは、発掘調査報告書に記載されている、ひとつひとつの調査単位である。従って1冊の報告書が、複数レコードに分解されて登録されることも多い。

ユニットの考え方について

フィールド個々については、前掲書に詳しいので、ここでは説明を省略し、情報記載のために作られたユニットという記載単位について述べる。

【遺跡概要】では、内容の表現のために、「種別」「時代」「遺構」「遺物」の4つの部分を基本の一組として設定し、これをユニットと呼んでいる。また、各部分は属性、それぞれの内容は要素と呼ぶ。

例として、ある遺跡についての記述を、ユニットの切れ目ごとに改行して示すと、

集落-旧石器-石器集中 4+礫群 2-ナイフ形石器ほか/

集落-縄文早期-竪穴 3+炉穴 9+落とし穴 11+土坑 2-縄文土器（井草式+芽山式）/

集落-縄文前期-土坑 1-縄文土器（黒浜式）/

集落-縄文中期-竪穴建物 67+落とし穴 1+屋外埋設 10+集石土坑 4+土坑 165+ピット-縄文土器（勝坂II式から加曽利EIII式）-石器（石鏃+磨製石斧+打製石斧+磨石+敲石+石皿+石棒）/

集落-縄文後期-縄文土器（称名寺式+堀之内式）/

集落-古代-竪穴建物 1+須恵器+土師器+鐵器/

集落-中世から近世-井戸 1+土坑 2+段切り 2+ピット列 16+溝 54-土器+陶磁器+土師質土器+瓦質土器+砥石+錢貨

となる。

このように、種別が異なるか、時代が異なれば、別のユニットとして記載していくことによって、理解しやすい表現を目指している。

時代区分をどこまで細かくとるのかは難しい問題である。細分すればいいというものでもないが、そうかと言ってあまり大まかなくくりとなることも望ましくない。それぞれの遺跡の特徴に基づいて判断すべきである。

検索に適した記述

報告書抄録データベースでは、検索で必要な情報に到達することができるよう記述の仕方にも工夫を施している。

先の例にもあるが、縄文土器の型式名の表示方法を統一している。

縄文土器（黒浜式）

としているのは、「黒浜式土器」と記述すると、縄文土器であるのかどうかが一般の人にはわかりづらいからである。また、検索によって、縄文土器が出土している遺跡の数を数えることを可能とするという目的もある。「黒浜式土器」という書き方ではこのような概括的な検索を行うことができない。

データの記述に使用する文字にも注意を払っている。これには、考古学上の用字の問題だけではなく、Windowsでの文字コード割り当てに起因する問題もある。いずれも詳細は、『遺跡情報交換標準の研究 第3版』を参照されたい。

展望

抄録データの中には、発掘調査報告書の編集機関に関する情報、報告書の書誌情報、そして個別の調査に関する情報という3種類の情報が入っている。本来であれば、これらは、3つの表の組み合わせとしてデータベース化されるべきと考えられるが、抄録データベースではひとつの表として処理している。データの正規化という観点からは、さらなる改良が求められる。

そして、現行の抄録データベースが、「調査」（あるいは、調査に関する報告）を、ひとつのレコードとして組み立てられているものである以上、その他のまとまりを単位とするデータの整備が求められる。

「遺跡」を単位とする情報は、遺跡データベースの充実によって提供されるべきである。

報告書抄録データベースの改良によって、「報告書」1冊ずつを単位とした情報の整理を進めるとともに、発掘調査の調査機関、発掘調査報告書の編集機関に関する情報も整備すべきである。機関に関するデータベースは、個々の機関の同定を進めて、名称や所在地等の変遷を正しく追跡できることが求められる。

発掘調査報告書の情報については、抄録だけではなく、報告されている情報全体へのアクセスが求められている。冊子体の報告書を閲覧するのは、奈良文化財研究所所蔵のものについては、所蔵図書データベースを有効利用することで実現可能ではある。とは言え、遠隔地の方には簡単なことではなく、情報の再利用や活用は容易ではない。

今後、報告書をpdfファイル化して閲覧を簡単にすることが求められる。さらには、報告書に記載されている内容に対して、全文テキスト検索等が実現することが望ましいあり方だと考える。

薬師寺典籍文書データベース

はじめに

奈良文化財研究所は、南都の寺院が所蔵している書跡資料の調査研究を長年に渡り継続して行っている。薬師寺にも、多くの典籍や文書等が伝わっている。調査研究は現在も継続中であるが、これまでの成果の一部として書誌的なデータをデータベース化して利用に供しているのが、薬師寺典籍文書データベースである。

図35 薬師寺典籍文書データベース導入画面

フィールド構成

- 詳細画面で提供しているフィールドは、
- 【函号等】
- 【番号】
- 【小番号等】
- 【小番号等2】
- 【史料名】
- 【版本】
- 【日付】
- 【西暦】
- 【員数】
- 【書写年代】
- 【装幀・形状】
- 【欠損】
- 【料紙】
- 【法量(縦)】
- 【法量(横)】
- 【紙数】
- 【備考】

から成る。

図36 薬師寺典籍文書データベース一覧画面

いずれのフィールドを対象にしてもフィールド指定検索が可能であり、細かな条件を組み合わせて指定できるようになっている。

図37 薬師寺典籍文書データベース詳細画面

【装幀・形状】【料紙】といった外形的な情報による網羅的な検索は、電子的なデータベースが得意なところである。また、【史料名】のようなフィールドでは、名称の一部しかわからない場合でも、全文検索の機能を活かして検索できることも、データベースならではの活用方法であると考える。

平城京出土陶硯データベース

はじめに

平城宮跡・平城京跡からは、焼き物の硯が数多く出土している。これらを集成した資料集が、『平城京出土陶硯集成 I 平城宮跡』(奈良文化財研究所史料第77集、奈良文化財研究所、2006)、『平城京出土陶硯集成 II 平城京・寺院』(奈良文化財研究所史料第80集、奈良文化財研究所、2007)として刊行されている。その内容をデータベース化したものが、平城京出土陶硯データベースである。

2014年3月現在のレコード数は1,092件である。

フィールド構成

検索可能なフィールドは、

【報告書番号】

【次数】

【出土地点】

【地区】

【出土日】

【遺構番号】

【遺構】

【層】

【硯形式】

【法量】

【焼成（窯痕跡）】

【備考】

【概報・報告】

【PL、Ph】

【写真年度】

【写真種別】

と、一連の写真番号である。それについて、包含検索、先頭一致検索、完全一致検索が指定できる。

図40 陶硯データベース一覧画面

検索結果は、16件ずつ一覧表示され、サムネイル画像と共に示される。このうちの1件を選択すると、詳細な情報を得ることができる。

図41 陶硯データベース詳細画面

詳細画面では1点ごとに、詳しい写真が添付されている。冊子版とは異なり、文字データと画像データを一覧しながら検討することができるとなっている。